

あけましておめでとうございます、皆様お元気で過ごしてでしょうか。  
本年もよろしくお願いいたします。

2018 新年号 vol.17 は、寄稿 2 編をお届けいたします。なお、いただいた原稿は明らかな誤字脱字の修正と個人名のイニシャル化を行った他は原文のまま掲載しております。



## たくさんの出会いに感謝！

文：Y.O. 47 歳 (2017 / 11)

今から 6 年前になります。保育士として正規職員 17 年目、忙しさの中にも充実した日々を送っていました。そういった中、医学の知識がなかった私が招いた行動からはじまり 6 年前の治療、その後仕事復帰して 5 年後再発した今回を振り返りまとめます。

### ○違和感を覚えた初めての日 2010年8月15日

夜、シャワーをしていると左胸がピンポイントでとてもかゆかったのを覚えています。そのピンポイントのかゆさは米粒程の大きさの平べったい出来物のようでした。何を思ったのか、日付を覚えておこうと記憶しています。

気になりながらもこの状況を何処に相談して良いか分からず、まず内科・アレルギー科の主治医 N 先生（これから何度も助けてもらいます）の病院の婦人科の医師に相談しました。相談したところ私自身、緊急に何かをしなければいけないと捉えていませんでした。

これから秋に向けて仕事が忙しくなる！そして私は当時、運動会の実行委員長だった為、運動会後再度病院に行こうと思ひとまず今の状況は後回しにしようと思いました。

### ○「青天の霹靂ですね」と言われた

運動会が終わり少し落ち着いた頃病院に行きました。何処に行ったら良いか分からずまずは婦人科の女医さんのところへ。ようやく乳腺科で診てもらうことが分かりました。比較的待たずに診てもらえる病院を紹介してもらい、11月～12月にかけて検査等しました。結果、その医師の経験上良いものではないとのこと。全摘してリンパも取った方が良いと。その時、「青天の霹靂ですね。」と言われた。

この病院は自宅から不便という事もあり、ひとまず主治医 N 先生に紹介状を書いてもらいました。

そしてN先生に相談して紹介状を書いて頂き、年明け1月から市大病院にお世話になることになりました。

年末年始は実家に帰省し、そこで母に経過報告をしました。至って元気な私なので報告する時も実感がなく、ただ家族の気持ちの方が心配でした。報告したその夜、お風呂で8月15日に米粒程だった出来物の場所を触りました。すると、1cmの丸い形に育って皮膚の中に出来ていました。その時、あまり良いものではないと覚悟を決めました。

そして年が明けてすぐ市大病院に行きT先生と出会い今日までお世話になっています。市大病院では温存で良いとのこと。全く再発しないとは言えないが確率は伝えてもらいました。全摘しなくて良いと聞いてホッとしました。

職場はひとまず管理職に伝えました。すると、「治療は大変なのでしっかり休んで治し！」と言って頂きました。その言葉はとても有りがたく励みになりました。

仕事を休む直前ぐらいに保護者に報告しました。担任をしていたこともあり手術の次の日が発表会なので伝えることにしました。仕事最後の日、色紙にクラス全員からメッセージを頂きました。とても励まされ入院中ベッドの上に飾って過ごしました。

### ○手術より辛いその後の治療

入院説明会で一緒になったHさん、縁があり入院部屋も一緒になりました。このHさんは今後の治療や再発後等とても支えになりました。Hさんの周りには同じ経験をされた方が何人かおられ、気をつけること等いろいろ教えて頂きました。私の周りにはこのような病気になった人がおらず、全く情報がわかりませんでした。情報が知りたい！そんな気持ちから市大病院内にあるパンフレットをかき集めて・・・そこで髪が抜けた後の医療用ウィッグの美容院を見つけました。その美容院は近所があり、その後抗がん剤をはじめるにあたり気持ちの面でもとても助けられました。

そして、患者会ぎんなんとも出会うことになりました。患者仲間と交流をしたり勉強会に参加したり、情報が分からない私にとって患者会はとても有りがたい存在でした。

入院手術後の夜、水を飲もうとすると気持ち悪くなって吐いてしまいました。何も口に入れずそのまましんどい長い夜だったのを記憶しています。朝になり、電気がつくとき日昇った様な感覚で楽になった感じでした。起きると顔が腫れていました。そういった大変なこともありましたが、その後の放射線治療と抗がん剤治療の方が振り回された印象です。

放射線治療は30回するところ、肌が荒れ15回でドクターストップがかかりました。

抗がん剤は4回、3週間あけてしました。抗がん剤を投与して1週間はアレルギー止めの薬が効いているのですが、薬が切れると蕁麻疹が出てきて痒くなり、アレルギー科でお世話になっているN先生のところで診てもらい落ち着いた頃に再び抗がん剤、これを4回繰り返しました。なので、抗がん剤をする為T先生のところに行く頃は蕁麻疹が落ち着いた時なので、最初自宅での蕁麻疹の様子をわかしてもらえないような感じでしたが、写真に撮って姿を見てもらうとわかってもらえました。

抗がん剤で弱った体を前の様に戻していくのは随分時間がかかりました。

抗がん剤後はホルモン療法5年間薬を飲むことになりました。

### ○病気後、仕事復帰の5年間

私のような病気の人が同じように仕事復帰が出来て働き続けられるように、そんな道筋をつけることが出来たらとの思いで何とか治療にも耐えて復帰しました。そして復帰出来たのは働く職場の人達の配慮がありました。そういったことを前置きに伝えますが、同じ経験をしている人が近くにいないということは理解してもらうことが難しいと思いました。

働き続けてこられたことには感謝していますが・・・想像力を働かせて経験していないことを理解してもらうという事は簡単なことではないと思いました。道筋をつけるというより、気持ちを分かってもらえない孤独感そんな気持ちになることが時々ありました。病気で休む前の私を知っているだけに少しずつボタンのかけ違いを起こしたようです。それでも限られた有給を使ってのみ病院の検査等に行き、迷惑かけずに仕事をしたと思います。

今の私の立ち位置は長く働き続けていると分かります。その時の私には、その仕事に責任を持つ自信がありませんでした。“無理をして再発したらどうしよう！”等考えて正規職員は1年で退職をして、2年目からは非正規職員として働かせてもらえることになりました。

そういった中でも、リンパを取らずに仕事復帰できたことに感謝して、今までの振り返り大事に丁寧に仕事をしようと心がけました。特に、産休明けで入園してきた子どもにミルクを飲んでもらうとき、“リンパに転移してなくて良かった！”としみじみ思いました。(リンパを取るか取らないかでは抱きながらのミルクの飲ませ方が変わります)

仕事に関しては、子どもにとって何が大切かを考えて保育しました。私なりには働く職員や保護者とも子どもを真ん中に！を大切に心がけて日々過ごしてきたと思っていました。

検査は1年に1回受けていました。ホルモン療法を終えて約半年後の2017年3月1日の検査で久しぶりに細胞の検査をしました。不吉な予感を感じながら1週間後結果を聞くと、やはり転移していました。(幸いにも早期発見で6年前より治療は軽く済みました)しかし、脇の方ということでリンパを取るようになりました。まず浮かんだことは“保育の仕事が続けられるのか？”“子どもを抱いてミルクを飲ませられるのか？”・・・T先生は「反対側の腕で飲ませたら」とは言うけれど、“人と関わる仕事！”“命を預かっている仕事！”と思ってきた私にはすぐに受け入れられませんでした。けれども、T先生の「命はとらん！」の言葉に少し救われました。その1週間後、入院に向けての検査が緊急に入りました。

再発が分かって最初に伝えた友達は6年前一緒に闘病生活を送ったHさんでした。Hさんはその時リンパを取っていたにもかかわらず前向きに過ごしておられました。その時の様子や気をつける事等教えてほしかったので久しぶりに連絡をしました。Hさんは都合をつけて入院に向けての検査日病院まで会いに来て下さいました。そして6年前の経験等思い出して教えてくれました。持つべきものは友！本当にありがたかったです。

24日入院し27日手術、31日退院と3月は目まぐるしく変化をした1か月になりました。6年前にお世話になっていたこともあり私のデータが残っていてスムーズにことを進めることが出来たのだと感謝しています。データをもとに病院関係の人達が配慮を心がけて下さり、そのおかげで6年前より楽に手術を終えることが出来ました。

手術は無事順調に終わることは出来ましたが・・・入院前のことです。仕事最後の日、仕事を終えた後に管理職から話がありました。「今の職場で働くのは無理ではないか。」「もう居場所はない。」と私は捉えました。23年間一緒に働いてきた先輩からの仕事最後の言葉と思うとなんだか寂しく思いました。非正規になると1年契約で4月1日～翌年3月31日までの契約の為、3月に入院する私は先がないのはわかるし経営者側の事情はあるとは思いますが違う言葉はないものかと・・・その後、いろいろとフォローはありましたが最後の言葉に傷つきその後は受け入れられなくなりました。

○私は腐らずに生きて行けるか？

入院中、この先どうなるのだろう・・・“保育所時代からなりたかった保育士の仕事を続けられなくなるのか？”“今の職場を辞めなければいけないのか？”“もし辞めなければならなくなったら私はこれから腐らずに生きて行けるのだろうか？”たぶん、冷静に今後の自分の先のことを考えていました。

そんな辛いと思うこともありましたが、私が仕事に来ていない事に気づいてくれた保護者がいました。その保護者の子どもを6年前に担任していて、仕事復帰後も気にかけてくれていました。そして仕事復帰した時も下の子を担当するという縁がありました。その保護者が呼び掛けて下さり、沢山の人の(卒園児や卒園児の保護者、在園児や在園児の保護者)から励ましのメッセージを頂きました。

もう一人の保護者は電話番号を教えてくださいました。直接様子が知りたいと。その保護者もまた6年前の担任で、仕事復帰後も気にかけて下さり時々声をかけてくれていました。

このような繋がりがあるので私はこの仕事が好きだし続けてきて良かったと思います。気持ちの面でも励まされるし宝物にもなりました。こういった経験を日々積み重ねて今日に至っていることに改めて感謝しています。

退院後、6年前にお世話になっていて仕事復帰後ご無沙汰になっていた患者会ぎんなんに顔を出したくなりました。T先生にそのように伝えると診察予約時間を調整して下さい、久しぶりに参加することになりました。6年前と変わらず辻さんをはじめ皆さんが迎えて下さり、一生懸命親身に話を聞いて下さいました。そういった変わらないこともあります。私が遠ざかっている間に患者会ぎんなんの場所や幅広い患者仲間・サポート体制や外部の専門家等、より良い環境になっていました。これも今まで積み重ねて下さった辻さんをはじめ患者会メンバーのおかげです。私も何かお役に立てない

かと・・・今後増えてくるだろうこの病気になった人の為に今回このように病気前と後の気持ちの変化を記録しました。参考になるか分かりませんが、知ってもらい少しでも働きやすい生きやすい世の中になれば良いなと願っています。

○これからも良い出会いがあることを願いたい！

私は23年間働き続けてこられた職場が好きです。しかし、再発すると“私はこの職場で働き続けて良いのか？”“保育の仕事をして良いのか？”今、自問自答しています。

決して順風満帆の人生ではありませんでしたが、私自身日々一生懸命に生き、そこには家族はもちろんのことですがいつも誰かが支えてくれていました。現在進行形ですが、全ての人達がこのような出会いや支えがあれば、人生の最後まで自分らしく、みんな生きて行けるのかなと今現在は思います。

まだ10数年は働かなければいけないので、今は“私にとって再発しないで長く働き続けられる職場は何処だろう？”と考えて過ごしています。今まで出会ったたくさんの人達に感謝し、今後も今までのような良い出会いが訪れることを願い、ひとまず終わります。



## 『小細胞肺がんになって』入院の体験記

文： 泉谷三良 (2017 / 11 / 8)

書くに当たり、退院して思いついた順に書きました。順序が前後したり、治療名等の間違いはお許しください。

初診から退院までの経過をまとめました。

平成29年の4月頃から咳が止まらなくなり、高校時代の友人S氏に病院へ行くことを強力に進められ、地元のお医者さんから、紹介状を貰い、5月16日(火)に日生病院で診察を受けました。その日に、18日に再度検査を行うとの診断を受けました。18日にCT撮影とレントゲンを撮り、診察後に肺がん(ステージⅣ 副腎に転移)の可能性があり、精密検査の為に入院の指示を受けました。

帰りのタクシーの中で、帰ってどう言おうか・・・と考えながら家に帰れずに、近所の洋食屋さんで『ミックスフライ定食と、ビールで』お昼を済ませました。

家に帰って、『ごめん、がんになってもたわ』と言うのが精一杯でした。余命3ヶ月とのことで、何をして良いかも分からずに、『えらいこっちゃ、どないすんねん』と、慌てるばかりでした。後で聞くと、『ごめん、がんになってもたわ』この言葉で、家内は癌と対峙し、がんと闘う覚悟が出来たとのことです、

5月23日から3日間の検査入院、気管支鏡検査と、MRI検査(造影剤使用)を行い、進展型小細胞肺癌(ステージⅣ)、転移は副腎のみと診断されました。入院して抗がん剤治療を行うとの診断で、5月29日から6月5日まで入院しました。

抗がん剤治療は、カルボプラチンとエトポシドの併用で、3日間点滴を行い、2週間の間隔をおき、これを繰り返すとの説明と、副作用の説明も受け、5月30日～6月1日に1回目の抗がん剤治療を行いました。6月2日にMRI検査、5日に骨シンチ検査を行い、抗がん剤は効いているので抗がん剤治療は続行と診断。6月5日に退院、2週間後から通院で抗がん剤治療を行うことに決定。6月19日から3日間化学療法室で2回目の抗がん剤治療開始、24日に気管支鏡検査を行いました。

抗がん剤治療時の副作用は、だるい、熱っぽい、しんどい、車酔いが同時に来たようで、本当にこの辛いのがどこまで続くんや・・・？、何時まで続くんや・・・？ こんな事ばかり考えていました。副作

用の辛さは、抗がん剤を打ち終って3日位してから始まり、1週間位続くのが分かるまでは、精神的にも辛かったです。

7月17日と8月8日に3回目と4回目の抗がん剤治療を行いました。抗がん剤投与時は、夏季でもあり、脱水症状や、じんましん、脱毛も始まり愕然とする思いでした。

8月27日の5回目の抗がん剤治療の前に、CT撮影、レントゲン撮影、採血を行い主治医診察時、86mmあった癌の大きさが22mmに縮小しており、転移したと考えていた副腎の大きさに変化がないことから、副腎は癌の転移では無く良性の腫瘍と診断。このことから、抗がん剤治療はストップ、9月4日より通院で、放射線治療を行うことに決定。

放射線照射は月～金の9時と、15時の1日2回の15日間、合計30回行いました。放射線治療も副作用が有りましたが、抗がん剤治療と比べると1/4位の辛さで苦にはなりませんでした。その時のメモには、癌がもっと小さくなっているか、消滅するか楽しみで、9月24日の主治医診断が待ち遠しく、わくわくしていました。

24日の診断では、癌の痕跡はあるが様子を見て行きましょう…で、治療は本日で終了とのこと！（私の中では、癌は消滅したんです）10月より、月に1回の検査で転移と再発を調べて行きましょう…と、夢のような診断結果でした。

これで転移や再発が無ければ、『奇跡が起きた、奇跡をおこしたんや』、こんな気持ちでした。

入院時から感じていたことですが、私には家族は無論、友人や取引先の方々、家内の友人やその娘様や、お孫さん等の暖かい見守りを受け、何の心配もなく病気と向かい合うことが出来ました。その時の気持ちは、『何が何でも生き抜いてやる！』『癌の餓鬼に負けてたまるか！』しかし、『あと3ヶ月しか生きられないんやなあ〜』『葬式の写真も撮っとかんとアカンわ、退院したら撮りに行く』

長いこと会ってない人と会いたい、特に高校時代の友人の、T（めんすけ）に会いたい！、こんなことが頭を駆け巡り、絶望感、死への恐怖感や不安感のなか、『絶対に治ってやる、どんな辛い治療でも耐えてみせる！』こんな格好の良いことを言いながら、不安や絶望感から破れかぶれになり家内に我儘を言い続けました。『今年の誕生日は、病院やから河豚食べられへんな…』『俺が死んだら、あいつとあいつは喜ぶやろなあ…』等を考え闘志を燃やししながら、泣いたりしながら過ごしていました。

こんなことを思いながら退院しました。

退院してから思ったことを纏めました。

29年5月16日に日生病院を初受診し、5月23日に入院、小細胞肺癌（ステージIV・副腎に転移有り）と診断、治療を始め4ヶ月後の9月22日に抗がん剤治療と放射線治療が終わりました。

主治医の先生から、10月からは月1回の通院でレントゲン撮影・CT撮影・採血を行い、診察で転移と再発のチェックをして行こうとなりました。

家内と2人で先生のお話を聞き、嬉しさと解放された気持ちが爆発し、天王寺のハルカスへ登ろうとなり、食事をしたり展望台からの大阪平野の四方向の風景、四天王寺さんを見ては、先人の建築技術に思いをはせたり、記念写真も初めて家内の肩を抱き写真を撮りました。何ヶ月ぶりかの解放感に浸りました。

家に帰ってから、受診から退院までの経過や、ご恩を受けた皆様方のことが頭を駆け巡りました。咳が止まらず、地元の先生に紹介状を貰い、日生病院を受診したことから始まり、それまでの気持ちの変化や、周囲の方からの受けた励まし、暖かい言葉が思い出され、小細胞肺癌と診断されてから、皆様方から受けたご恩をどの様なことで返していけば良いか、返すのが俺の義務だ、こんな気持ちになっていましたが、具体的にどうすれば良いかは分からずにいました。

そんな時にネットで、がん患者サポートの会 ぎんなんさんに辿り着き、市大病院で受診してなくても参加はOKとお聞きし、10月12日の定例会に参加させてもらいました。辻代表初め、メンバーの皆様方に非常にフレンドリーに接して頂き、同じ病気を克服された先輩のお話をお聞きし、『俺なんてたいしたことは無いんや、もっと病気で苦勞され、打ち勝っている方がこんなにいるんや・・・』一人でも良いので患者の方に声掛けさせてほしい、ここならそれが出来るんや、こんな私でも力に成

れるかもしれない、先輩のお話を聞きながら、こんなことを考えていると、辻代表から体験談を書かないか、とおっしゃっていただき、素直にハイと返事をし、私なりの使命感に燃えて書く覚悟をいたしました。

自分には家族の献身的なサポートもあり、免疫療法、健康食品、食事療法（マクロビオティック食養法）も家内が本を読んでやってくれています。家業の弁当屋（フランチャイズ）の仕事も、私の抜けた分も家内と社員の人達がキッチンとこなしてくれ、家内の病院通いも毎日で頭が下がる思いでした。家内が何時も言ってくれた言葉が、全ての頑張りの源でした。

『あんた 負けたらアカンで、あんたは信じられない位、負けん気のきつい人やから！』『癌は絶対に消えます、出来る限りの事はやります』『二人で築いたものやから、治療に全部使っても悔いは無い！』

私と同じ位か、それ以上に負けん気のキツイ家内が、我儘や無理のありたけを言う俺を見て、おろおろしているのが分かるんです。私もどう対処して良いか分からず、今も書きながら、泣きながら・・・、書きながら、泣きながら反省しています。

それに高校二年生から50年の付き合いで、兄と慕うS氏は、毎日2回以上メールをくれ、治療内容や症状を聞き取り、内科医の義弟さんに伝えてくれ、その都度専門的なアドバイスをくれました。彼の優しさの内に厳しさのある言葉に励まされ、メールを泣きながら読んで、泣きながら電話したこと等が思い出されます。

『オシッコだけは毎日チェックして下さい』は、今も心しています。

もう1人の高校からの友人のI氏も、毎日2回以上メールをくれました。彼の義兄は、昨年10月に肺がんを発症（ステージⅢ）し、本年2月に完治されました。I氏は、義兄の入院時に殆ど付き添い、抗がん剤治療や放射線治療についての副作用の辛さなども熟知されており、的確なアドバイスをくれました。彼のアドバイスで、抗がん剤治療の副作用の辛さに耐える事が出来ました。彼は私のメールから、くじけそうになったり、弱気に成りかけたり、怠けそうになった時には、厳しく指摘してくれ、S氏にも連絡を取り合い、励ましてくれました。

『病は気から』と言われていますが、入院してからもフランチャイズ本部のT社長、フランチャイジーの仲間始め沢山の人が入れ代わり立ち代わりお見舞いに来て頂き、へこたれたり、落ち込んで暇がないくらいでした。静岡県のOさん、N様はお見舞いの為だけに、わざわざ大阪まで4時間も掛けて来てくれました、本当に有難うございました。死ぬまで、彼らの熱い気持ちは忘れることが出来ません。

俺はいつも強気にカラ元気で、口癖の『俺は運が良いので癌の野郎を追い出してやる！』等と言っていましたが、夜1人になると『俺は、あと三ヶ月しか生きれない、どうすれば良いんや』と絶望的になり気分がムラが出て、我儘を言ったり泣いたりしてました。泣いている時に来られた看護師さんは、ヤンチャなおじさんが泣いているのを見られて、ビックリされていた様ですが、知らん顔して隣のベッドに行かれました。こんなことが入院当初は再々ありました。

癌に負けてはいけない、勝つんや！ このことを具体的に自分のこととして取れることが出来た言葉があります。S氏が、『お前がおらへんようになったら 俺どうすんねん！』

『ほんまの ダチはお前しかおらへん！』 この言葉は本当に心に染み入り、泣いて、泣いて、泣きました。ありがたいと言うか、絶対に生き抜いてやる・・・と心に誓いました。

『泉谷さん 耐えて下さい。医学は日進月歩で進歩しています。明日にでも画期的な治療法が生まれます』 T社長のお言葉。『おっちゃん気合いやで、負けたらあかんで、退院したら毎日、ラジオ体操してや！』と、半泣きになりながら、俺の肩をガンガン叩いて励ましてくれ、筋力低下を心配してくれた、みみちゃん。みみちゃんが、『これKが作ったミサンガやねん、付けといてね』 10歳の娘さんの、Kちゃんがミサンガをくれました、嬉しかった。

『泉谷さんと一緒に仕事ができる日が再び来ることを祈っています』税理士のI先生。『泉谷店長は殺しても死なへん、憎まれっ子、世にはばかるや。絶対に帰ってくるで』店の女性は言葉ではなく、暖かいまなざしで無言で励ましてくれていました。みんなに感謝しながら、隠れて事務所で泣いていました、ありがとう。

6月8日の66回目の誕生日の前に、日生病院のロビーで行われた相愛大学の学生さんによるミニコンサートで、幸せなら手をたたこうや、365歩のマーチ等を踊りも交えて歌ってくれました。聞きながら号泣、号泣で家内が恥ずかしがって病室に戻されました。『俺も治ったら こん風に励みたい、寄り添いたい!』

アナーキーで、生まれつきの臍曲がり、『俺が、俺がで生きて来て、ボランティア等は考えた事のない俺が、俺の癌は治るもんや』、治ったら、こんな風に他の人を励みたい・・・と目覚めた瞬間でした。この時、心の中でがんは完治するという意識が芽生えたと確信しています。こんな暖かい人達に囲まれ、気合いを入れられ、叱咤激励され、昼間は泣いている暇はありませんでした。それに主治医のT先生が真摯に治療に当たっていただき、的確な診断、詳しい説明をして頂き、何の心配もなく治療に専念することが出来ました。保険外診療（NK免疫療法）を始める事や、健康食品の服用に付いても快諾をいただき、保険内診療と、思い通りの保険外治療を行うことが出来ました、T先生には本当に感謝しています。

入院中に感じたことです、治療方針はT先生から出ているのですが、『実際に病気を治してくれるのは看護師さんや・・・!』私の周囲の看護師さんは、みんな優しく親切だった・・・、こんなことも思い始めました。日生病院の皆様、本当に有難うございました。

最後に、乱筆乱文のうえ入院時の記録も完全ではなく、記憶違いもあるかと思ひます、日をおいて書いていますし、文脈のおかしい所もあるかと思ひますがお許し下さい。

このような体験記を書く機会を与えていただいた、ぎんなんの皆様にお礼を申し上げますとともに、私でお手伝い出来ることはさせていただきたいと強く思っています。代表の辻様にはこれを書いているうちに、これからの自分の方向性が見えたことを感謝すると共に、これからのご指導をお願い申し上げます。

追伸、皆様の周囲の喫煙者の方に、是非禁煙を勧めてあげて下さい。『後三ヶ月で、俺は死ぬんや』、こんな思ひはしてほしくないんです。

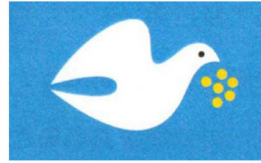


いかがでしたでしょうか？ では、次号 vol.18 をお楽しみに。

大阪市立大学医学部附属病院  
がん患者サポートの会 『 ぎんなん 』  
Cancer Patient Support Club 『 GIN NAN 』

---

**Mail:** [info@gin-nan.info](mailto:info@gin-nan.info)  
**URL:** <http://www.gin-nan.info/>  
**FAX:** 020-4664-5864



毎週木曜日 13:00～16:30

大阪市立大学医学部附属病院1Fでミニ患者会開催しています